

自治協議会ヒヤリング結果 （早良区）

1 自治協議会について「制度ができて良かったこと」、「運営して困っていること」はどんなことですか。 ○良かったこと ・主体的、民主的な運営ができるようになった。(5校区) ・各種団体間の連携が深まった。(4校区) ・運営の自主性や責任感が芽生えてきた。(4校区) ・情報の共有化が図られるようになった。 ・若者の参加が増えた。 ○困っていること ・役員等の人材不足(4校区) ・自治連合会が主催していた事業(夏祭り、敬老会、新春の集い)が、自治協主催となり、形式上自治協役員(各種団体長等)の指揮下にはいるため、疎外感(自主財源の提供者としての自負心)がある。	
2 活力あるまちづくり支援事業補助金について、ご意見をお聞かせください。使い方を自分たちで決められる補助金制度ができたことによって、新たに始められた事業はありますか。 ○活力あるまちづくり支援事業補助金について ・役員手当を補助対象にしてほしい(9校区) ・会計の透明性が図られた。(4校区) ・支出できない項目などがあり、もう少し、弾力性のある運営が出来ると良い。(4校区) ・補助金を増額してほしい。(2校区) ・人尊協・社協・ふれあいネット・老人クラブ・リサイクルステーション・公園管理等に交付している補助金を活力あるまちづくり支援事業補助金と統合してほしい。(2校区) ・国の補助金に比較して活力あるまちづくり支援事業補助金の使途が柔軟だ。 ・補助金が既存の団体の既存の事業の運営費に支出されており、新規事業にまで支出できる状況にない。 ・まちづくり補助金と社協の補助金の併用ができないので校区餅つき大会がやりづらい。 ○新たに始めた事業 ・自主防災(7校区) ・防犯パトロール(6校区) ・集団献血(6校区) ・夏祭り(4校区) ・スクールガード(4校区) ・伝統事業(2校区) ・あいさつ運動(2校区) ・もちつき大会 ・体力測定 ・油山川一斉清掃 ・ファミリーレクリエーション ・音楽文化祭 ・育みネットワーク ・子育てサロン	
3 公民館の地域支援について、どのようなことを期待していますか。 ・会議や事業に参画してもらっており、今後も同様の助言・指導を願いたい。(7校区) ・会議や事業に参画し、積極的に助言指導を願いたい。(6校区) ・自治協議会の事務局としての役割を担って欲しい。(3校区) ・住民が気軽に出入りでき、あいさつが飛び交う親しみやすい公民館であって欲しい。(2校区) ・各種会合における公民館の優先利用、コピー機等場の提供を期待している。 ・地域活動を自治協議会と公民館と区の役割分担が明確ではなく、連携が十分でない。 ・公民館が教育委員会から市民局に所管替えになったことは、制度としてみれば、地域密着となって良かったと思うが、地域から見れば、制度よりも、やはり館長なり主事の人柄に起因するところが大い。 ・地域説明資料に、「～コミュニティづくりの「核」としての公民館～」とあるが、「核」となる施設という意味合いであれば、例えば「拠点」という表現の方が、ふさわしいのでは？「核」という表現は、誤解を受けると思う。 ・役員になり手がなく、人材育成の講座を公民館で実施してほしい。 ・校区に公民館がないので、公民館から集会所へ出向いてもらい学習講座を開いてもらっている。これからも充実させて欲しい。 ・地域活動のための場の提供だけで良い。	
4 その他、コミュニティ施策全体について ・男女協の活動内容がよくわかりにくい。(2校区) ・教育委員会(学校)と自治協議会との関係が不明確であり、学校側に積極的に参加してもらいたい。(2校区) ・市民活動保険制度のお陰で、安心して地域活動を実践できる。(2校区) ・やる気応援事業が終了の3年目をむえているが、活力ある補助金からの捻出が難しく、是非継続事業として実施して欲しい。(2校区) ・地域に各局から色々な事業を押しつけてくるが、地域支援課を窓口にしてほしい。 ・多岐多様にわたる住民要望に対応する際、窓口が地域支援課一本になったことで助かっている。 ・献血事業は地域の事業として馴染まない。 ・自治会活動費の大部分を補助金に頼っているのでは仕方ない面もあるが、事業を実施するうえで、行政の指示をあまり受けたくない。 ・行政の縦割りの弊害が解消の方向に進んでいる。 ・早良区代表者会議で、自治協議会会長の費用弁償として10万円を支給することになっていたが、新聞等のマスコミで問題となり支給しないこととなり非常に心外だ。 ・早良区代表者会議で環境推進委員の廃止の問題で、方針がコロコロ変わるのは困る。 ・博多区的那珂川等水害防止のフォーラムがあっているが、室見川の水害防止フォーラムを実施してほしい。 ・各種団体の代表者は約21名いるが、毎年一部が任期切れとなって交替が生じており、地域活動に対する理解と意欲の程度によって自治協議会の活動や役員構成にも影響を与えている。 ・自治協は行政の下請けと言う感が地域にあるため、独自の事業を展開し広く自治協議会を認知してもらえるようにしたい。	
5 地域活動をして「良かったこと」、「困っていること」はどんなことですか。 ○良かったこと ・地域の多くの人を知り、交流の輪が広がった。(7校区) ・ある種のやりがい、達成感を得た。(3校区) ・校区全体をあらゆる面で把握・理解できた。(2校区) ・今年の夏祭りにおいて、地元企業の協力を得ることが出来た。今後も地元企業と地域との連携を深めていきたい。 ○困っていること ・事務量などが増え多忙になった(8校区) ・自治連合会時代の地域活動の考え方から脱却できない人達があり、活動の足並みがそろわないことがある。(2校区) ・役員手当もなく、自腹で補なっている部分が多い。 ・集団献血で、日赤の職員が昼休みを同時に取るので、昼休み時間にしか献血ができない人への対応してもらいたい。 ・行政の行事は勤務時間中にしようとするため、住民が参加しやすい時間帯にセッティングしてほしい。 ・プライバシーに関わって欲しくない個人・家庭が増えるなかで、地域活動には強制力が無いので、如何に地域活動に対する理解を得るかが難しい。 ・子ども会のこどもの人数の少ない現象が、運動会や子どもの球技大会、地域みこし祭り等にも大きく影響が出てきた。 ・夏祭りに参加する若い人をいかに取り込むかが問題である。 ・自治協議会会長として何処までやればよいのか戸惑う。	
6 その他、日頃の地域活動でお気づきの点をお聞かせください。 ・プライバシー保護により、地域活動が制限され支障をきたしている。(2校区) ・各町内会長等は、ボランティアで活動しているが、地域活動を行うにあたり、行政から委嘱状等があれば活動しやすい。(2校区) ・以前は、町世話人という準公務員という立場であったため、協力してくれていたが、いまは協力してくれる人が少なく、募金(日赤)等も少なくなった。 ・自治協議会の役員等永年の功績に報いる方法を考えてはどうか。 ・集合住宅は町内会に加入していることさえ知らないし、協力もしないので、組織の充実を図っていきたい。 ・校区の事業を住民全員に理解してもらうのは大変であるが、3大事業を通して、参加者と役員等がその都度笑顔で話し合うなど、ふれあいの中から多くの住民に理解を求め、校区事業の推進に努めている。 ・事業を行ううえで、小中学校・大学との連携はとれているが、高校に協力をもらえないので何とかならないか。 ・他校区との連携や情報交換が重要。 ・地域では、地域活動を盛り上げていこうと、みんな前向きだ。 ・防犯組合、交通安全協会、少年補導員等、警察関係の情報が伝わってこない。 ・自治協議会会長の当て職が多く多忙(日赤歳末募金委員選任、選挙立会人選任、民生委員選任等) ・老人クラブという名称が悪い。名称を変更して欲しい。もっと入会したくなるような明るい名称を望む。 ・出来る限り役職の兼任は避け、一定の個人に仕事が集中しないようにしている。 ・休日(土日祭日)市職員が地域活動に参加しない。協力してほしい。 ・人材発掘と育成が課題であり、今後、公民館と一緒に進めていきたい。 ・自治会活動の広報活動も事業ごとに発行していきたい。 ・自治協議会の機関紙を年2回発行し、全戸に配布し、自治協議会の組織・役員構成や各種団体の活動状況を報告している。 ・あらゆる情報が、自治協議会会長を通して行われるが、この情報の取扱(校区にどのようなおろしていくかなど)苦慮することがある。	